

新運田

No. 2042
2017.4.9
日本共産党
蓮田市委員会
TEL 769-4667
発行責任者
清水 敏夫

小口利用者ほど負担が重くなる 水道料値上げ案

基本料金28・9%アップ

水道料金を平均16%値上げする上下水道審議会の答申が出されました。

水量別にみると、「一般家庭」の20㎡までの基本料金が現行1,800円を520円増(28・9%)、30㎡までが現行3,300円を720円増(21・8%)の値上げ案となっています。

他方「工場その他大口用」では、1千㎡までが6・4%、1万㎡が4・7%の値上げです。使用水量が一番少ない基本

水道料金改定案		
用途	水量	値上げ率
営業用 一般用	20㎡まで	28.9%
	30㎡まで	21.8%
	50㎡まで	19.1%
	100㎡まで	17.9%
大口 工場	1千㎡まで	6.4%
	1万㎡まで	4.7%

生活相談は
お気軽にどうぞ
きしお悦子
769-6523
栗原いさむ
769-0322
船橋ゆき子
090-8612-7963

料金が一番高い値上げ幅となつています。高齢者や生活困窮者をはじめ、厳しい市民生活を圧迫する改定案です。

黒字の水道会計

蓮田市の水道事業は、様々な経営改善の努力もあり、この3年間料金を据え置いてきました。収支はずっと黒字です。しかし、給水収益の減少、施設の老朽化、逆ザヤ(注)の問題などの課題に対応するために料金の改定を行うとしています。

(注)給水原価(費用原価)が供給単価(料金単価)を上回っている状況のこと

経営試算に疑問

今回の料金値上げは、水道ビジョン改訂版の計画期間(2016年〜2025年)を見据えた経営試算表をもとに検討したとしています。

これには、西口再開発、蓮田サービスエリア、高虫企業立地

小口利用者ほど

高負担は大問題

こんどの値上げは「逆ザヤ」の解消を目的の一つとしています。そのことが小口利用者ほど値上げ率を大きくする理由になつていきます。

水は命の源です。生活をする上で欠かせない水が小口利用者ほど重い負担となるやり方は水道事業のあり方として大問題です。

水道料金値上げは6月議会に提案が予定されています。このような値上げ計画はきつぱり中止すべきです。

3月定例議会

蓮田市議会3月定例会は2月22日開会、議員14人が一般質問を行い、市長提出議案の「平成29年度蓮田市一般会計予算」「蓮田市税条例の一部を改正する条例」など34件を可決、3月21日に閉会しました。

求められる住民福祉の増進 一般会計予算に反対

国の悪政に対して、住民福祉の増進を図る自治体の役割が強く求められます。

一般会計予算に反対する理由の1点目は、学童保育所指導補助員の民間人材派遣会社への委託費です。学童指導員の不足から、民間人材派遣事業者派遣の予算が計上されていることです。市の学童指導員として、子どもたちの成長を長期に見守り、安定して働き続けられ

る待遇・勤務体制の改善を行うことが必要です。2点目は、マイナンバー制度導入による、中間サーバー費用があります。これは、地方自治ではなく、中央集権の典型例になる危険性が強い仕組みといえます。3点目は、高い国保税に対して、一般会計法定外繰り出し金が相変わらず1億円と少なく、県平均の3分の1にも満たない金額です。以上の点から日本共産党は反対しました。

皆さんと力合わせて

実現しました

・ 市社協ホームヘルパー派遣事業中止撤回、継続へ(昨年9月継続決定)

・ 小中学校の普通教室にエアコン設置(今年6月から稼働予定)

・ 老朽化した中央保育園の建替え(2018年4月開園予定)

障がい児者の『暮らしの場』の整備を求める 国への意見書、公明党の反対で提出できず

3月議会に、国への意見書「障がい児者の生きる基盤となる『暮らしの場』の早急な整備を求める意見書」提出を求める、「障害者にとって住みよいまちづくりをすすめる蓮田市民の会」(高岩増子会長)の要望をうけ、日本共産党が代表者会議に提案しました。「会」では、意見書提出への理解を得るため、支援者と一緒に障がい者の方が車いすを押しながら、各会派室を説明に回っていました。

会派代表者会議で、公明党が「昨年手をつなぐ親の会を出ている。今回出すべきではない」と「反対」。しかし「親の会のは請願であり、国への意見書ではない」などの意見から、持ち帰りとなりました。再度代表者会議を開きましたが、公明党だけが反対し、蓮田市議会は国への意見書提出は全会一致のため、提出ができませんでした。

市民要求の実現めざし

日本共産党の3市議が一般質問

「子どもの貧困」の実態調査と

就学援助の拡充を

船橋 ゆき子議員



議員が引き出した「入学前支給」と「実態に見合った額への引き上げ」答弁も引用し、入学準備金の支給時期前倒しと増額を求めました。

支給時期について市長は「何とか努力して入学前の支給を実現したい」、増額については「十分検討したい」と答弁しました。

他に老人福祉センターの昼のバス復活、ハストピアのバス利便性向上について質問。

一般会計法定外繰入金増額を 高い国保税の引き下げ求める

きしお 悦子議員



「国保を医療費適正化(削減)する」ため「国保の都道府県単位化と国保税引き下げ」を求め一般質問しました。

2018年度から国保が都道府県単位化になります。これは国保の構造的な問題を解決するためのものではなく、「国保を医療費適正化(削減)する」ため「国保の都道府県単位化で高い国保税がどうなるのか、どうするのか一番の問題です。」

蓮田市の一般会計法定外

介護を必要としている人に 寄り添った介護を

栗原 いさむ議員



介護保険から外し、全国統一の介護保険給付から市町村事業(総合事業)へ移行させるものです。すでに移行している市では、今まで受けられた支援が受けられなくなったという様々な問題が報告されています。

蓮田市においては、どう変わるのか質問しました。部長は、「訪問型および通所型サービスでは、今までのサービスを継続して実施する。新たに

市独自の緩和した基準によるサービスも実施する。利用料については、国の単価を下回る額を定めると規定されている」と答弁しました。

栗原議員は、「新たなサービスを行うホームヘルパーの講習内容は、対人援助ということから、利用者に寄り添った専門性が必要である」と求めました。また、「どのサービスを受けるかは、本人の意思を尊重するののか」と質問。部長は、「本人の考えを尊重する」と答弁しました。

他に、公契約関係競売入札妨害被疑事件について質問。

傍聴席

議会が共産党の3人の議員の一般質問を傍聴しました。どれも私たち市民の気持ちに沿った質問で共感しました。

特に船橋議員の就学援助の入学準備金の支給時期を入学前にするよう求めた質問に対して、市が前向きな答えをしてくれて嬉しく思いました。

入学前にお金がかかることをくわしく説明する船橋さんは小学生のお子さんを育てている。現役のお母さん”とのことで、なるほどと思いました。これからも、私たちの声を市政に届けてください。

関山・鈴木三代子

船橋議員は、子どもの貧困の実態や問題は表面化しづらいことを指摘。すでに実態調査をしている富士見市を紹介し、調査費の4分の3が支給される国交付金も活用して、蓮田でも子どもの貧困実態を調査し、具体的な施策につなげるべきと求めました。

部長は「実施方法の研究が必要。交付金の活用図れれば大変有意義」と答弁しました。就学援助の入学準備金は増額し、入学前に支給を

就学援助の中でも、特に入学準備金は入学前に支給されるべきですが、現在は入学後の7月に支給されています。小学校は年額2万4700円、中学校は2万3,550円支給されますが、中学校入学には制服等で10万円程が必要となり、実態に見合った額となっていない。

船橋議員は国会で田村智子

介護保険制度は、介護保険料を支払う代わりに、いざという時には十分な介護が受けられるはずでした。

今回の焦点は、「要支援を介